

三心を磨く

学校だより No. 12

令和4年2月14日(月)発行

須坂市立東中学校

文責：嶋田 和美 (教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

新たな命を吹き込む ～2月の校長講話から

長野県も「まん延防止等重点措置」が適用され、東中学校でも先月28日(金)より「分散登校・オンライン授業」を実施しています。また、受験シーズンも始まり、8日(火)には公立前期選抜が行われ、多くの3年生が受検しました。3年生の進路決定、2年生の生徒会の立ち上げ、1年生の新入生受け入れ準備といった来年度に向けて大切な時期です。最善の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行っています。

さて、分散登校期間の9日(水)の1校時オンラインにて校長講話を実施しました。事前に録画された講話を、登校して教室のスクリーンで、家庭でGoogle meetのオンラインで、それぞれ視聴しました。視聴後は学級5～6班に分かれ、対面で、オンラインのweb会議で「『PLEYEL』のピアノに新たな命を吹き込むためにできそうなこと」について話し合う場面が設定されました。

山岸右京さんについて

おはようございます。分散登校・オンライン授業の日々ですが、まだ新型コロナの感染拡大が続いています。まだまだ気が抜けない状況が続きます。全校が集って学ぶことができないのはさみしいですが、行うべき感染予防を確実にし、一日も早く感染拡大が収束に向かうようお互いに頑張りましょう。

今日の校長講話は、録画でお送りします。また、講話の中の資料も、**クラスルームに投稿します**ので、必要に応じて見返してください。

さて、今日のテーマですが、「**新たな命を吹き込む**」です。

このスライドの写真の方は、年末年始休業の課題にした、「東中・東地区に関わりの深い**山岸右京さん**」です。今から135年前に生まれた右京さんは、菓子店を開業し、50歳の時に店を弟に譲り、東京に出て新しい事業にチャレンジし、西神田ビルの社長として貸事務所を経営された方です。

ここで、年末年始休業の課題を提出してくれた皆さんの中から、何人かのレポートを紹介したいと思います。

年末年始休業の課題レポートから

最初に、1年1組の上田さんのレポートです。

仁礼小学校に今も残る「希望に燃えて あかるく たくましく」の像。

東中の西階段の下にあるプレイエルのピアノ。ショパンが愛した名門ブランドで、歌うような、素晴らしい余韻と深い響きをもつ、現代では入手困難な幻のピアノ。

皆さんの登下校を見守る、二宮尊徳像。

山岸右京さんが仁礼小と東中に寄贈してくれたものをまとめてくれました。

次に、1年2組の仲村さんです。

東京に出て成功し、後に、東村の名誉村民になったこと。

東中学校に、プレイエルのピアノを含め、3台のピアノを寄贈されたこと等を寄贈された年ごとにまとめてくれました。

学校目標 三心自立 「学ぶ心」「思いやる心」「鍛える心」を磨き自立する

校長講話 (令和4年2月9日)



テーマ：新たな命を吹き込む

- ・1887(M20)年 (今から135年前) 仁礼村中村で山岸要蔵の三男として誕生
- ・小学校を卒業後、長野の菓子店に奉公
- ・4年後、独立して長野に菓子店を開業
- ・「善光寺せんべい」を発案し、成功
- ・50歳で店を弟に譲り、東京へ
- ・土地家屋の売買等を経て (株)西神田ビル社長として貸事務所経営

「希望に燃えて あかるく たくましく」 山岸右京様寄贈の像(仁礼小学校)



昭和33年 山岸右京 氏 寄贈 プレイエル社のピアノ (東中学校)



キャッチフレーズ ショパンが愛したフランスの名門ブランド
創業者 イグナツ・プレイエル
特徴
・「シンギングトーン」といわれるブリリアントで余韻の深い響き
・明るい響きを生み出す軽やかなタッチ
・現代では入手困難な「幻の名器」

昭和36年 山岸右京 氏 寄贈 二宮尊徳像



二宮 尊徳(にのみや たかのり)は、江戸時代後期の経世家、農政家、思想家である。
自筆文書では金治郎(きんじろう)と署名している例が多いが、一般には「金次郎」と表記されることが多い。
また、諱の「尊徳」は正確には「たかのり」と読むが、「そんとく」という読みで定着している。
経世済民を目指して報徳思想を唱え、報徳仕法と呼ばれる農村復興政策を指導した。

まとめ

山岸右京さんという方は、仁礼小学校に、「希望に燃えて あかるく たくましく」の像を寄贈していた。

東中学校には、プレイエル社のピアノ、二宮尊徳像を寄贈していた。

どんな人か？

仁礼町出身、東村名誉村民

東京へ出ていき大変成功された人、東中学校に様々な寄附をしていただいた方。

現在も残る物/銅像

東中学校に寄附されたもの

昭和33年 プレイエル社のピアノ

昭和35年 音楽堂完成

昭和36年 二宮尊徳銅像 バックネット完成

昭和37年 ピアノ寄附

昭和40年 プラスバンド寄附

昭和42年 ピアノ、プラスバンド5点

1年2組の中谷さんです。右京さんが寄贈してくれたものやビルを建てたことなど、おじいちゃんから聞いたことをまとめてくれました。

2年1組の塩野さんは、右京さんが、音楽教育に関心が高かったこと、おじいちゃんが修学旅行で右京さんに会いに行ったことなどをまとめてくれました。

最後に、3年2組の仲村さん。バックネットなど、右京さんが寄贈してくれたものを年毎にまとめてくれました。

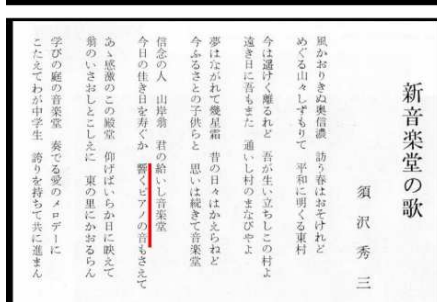


今紹介した5人のレポートに触れられていることは、このスライドにある2冊の中にも書かれています。

図書館や校長室にありますので、ぜひ、実際に手に取って読んでみてください。

山岸右京さんの生い立ちや関係者の思い・当時の東中学生の手紙など、もっと詳しいことを知ることができます。

1958(S33).3.12	南部中学校にPLEYEL 寄贈・演奏会
1958(S33).5.1	東村立東中学校開校
1959(S34).3/14	新校舎入校式
1960(S35).6/24	音楽堂完成(寄贈)
1971(S46)	須坂市立東中学校
2017(H29)	創立60周年
2022(R4)	創立65周年



ことがありますか？音色を聞いたことがありますか？音色については、3週間ほど前に、少しだけピアノを鳴らしたので、聞いた人がいるかもしれません。

◆山岸右京さんは、ピアノ、吹奏楽の楽器、像などを東中に寄贈してくれました。

◆仁礼小学校にも像などを寄贈されたそうです。

◆その後、東京に大きなビルを建てたと聞きました。(エレベーターがなく、階段を上るのがつらかったそうです)

すみません。これぐらいしか分かりませんでした。

【この話は、祖父から聞きました。】

東京都西神田ビル創設者に住んでいた。大正時代に生まれた。東村のビル経営で成功した人。仁礼小学校や東中に多くの寄付を行った貢献者である。特に音楽教育に興味を持ちピアノを始め多くの楽器を寄附した。音楽堂を作った。

昭和34年、校歌の歌詞と楽譜、作詞 竹内隆衛氏 作曲... 寄贈品、プレイエル社のピアノ、昭和33年 山岸右京氏 寄贈。

ちなみに私のおじいちゃんは、修学旅行で会いに行ったそうです

仁礼町出身で東村名誉村民になった方。大人になってから上京し、大成功された人で東中学校など、いろんな場所に様々な寄附をしていただいた方。
昭和33年 プレイエル社のピアノ
昭和35年 音楽堂完成
昭和36年 二宮尊徳銅像 バックネット完成
昭和37年 ピアノ寄附
昭和40年 プラスバンド寄附
昭和42年 ピアノ、プラスバンド5点などを東中に寄附していただいた。

改めて確認します。昭和30年に仁礼村と豊丘村が合併して、東村が生まれました。当時は仁礼村に南部中学校、豊丘村に東部中学校があり、二校を統合して東中学校を作ることが東村の強い願いでした。昭和33年、東中が開校する直前に、当時の南部中学校にプレイエルのピアノが寄贈され、記念の演奏会が開かれました。そして、その年の5月1日に村民の念願であった統合中学校、東中学校が開校します。2年後、右京さんから音楽堂が寄贈されました。その後、東村は須坂市に編入し、今年の5月1日に創立65周年を迎えます。

新生徒会の役員任命式の時に問いかけましたが、なぜ東中の音楽室を「音楽堂」と呼ぶのか。先ほども触れたとおり、山岸右京さんが開校当時に寄贈してくださったからです。今の校舎に改築されても、それを引き継いで音楽堂と呼び、右京さんの写真が飾られているのです。

この写真は、音楽堂ができた昭和35年に撮影された記念写真です。左後方にあるのが音楽堂。前列中央の右側が右京さん。左側が担任の須沢先生です。

須沢先生は音楽の先生で、新音楽堂の歌を作詞作曲し、当時の生徒は歌詞の中にあるプレイエルのピアノの伴奏で歌っていたようです。当時の生徒、高橋節子さんは、右京さんに宛てた手紙の中で、「おじさまにいただいた音楽堂が見事に完成して、最初に入ったときは、あまりに立派なので驚きました。須沢先生が作詞作曲の「音楽堂の歌」も口ずさんでいます。」と書いています。

Pleyel のピアノについて

これがそのプレイエルのピアノです。西階段の下に今も置かれています。

皆さんはこのプレイエルのピアノを近くで見たことがありますか？手で触れた



これはプレイエルのピアノのパーツです。

左上が譜面台。プレイエルのロゴと透かしが入ったおしゃれな譜面台ですが、破損しています。

右上は、ピアノの内部にあるフレームで、PL&CIE のロゴが入っています。P はプレイエル、L は経営者のリヨン、&CIE はフランス語で、英語だとカンパニー、日本語だと、会社という意味です。

左下はスライドの説明通りですが、今東中にある他のピアノと比べると、ずいぶん凝った作りだということが実感できると思います。その隣が製造番号。この製造番号を手がかりに、製造年代が特定できるそうです。

右下は、ピアノの演奏時に上に持ち上げて開く「屋根」を支える突上棒を取り付ける部分です。割れているのが分かります。突上棒は今はありません。

これは鍵盤部分です。黒い鍵盤は黒檀という高級木材で、白い鍵盤は象牙が張られています。ただ、象牙が剥がれてしまった鍵盤がいくつもあります。なお、象牙はワシントン条約で輸入が禁止されているので、入手困難です。

ピアニスト側から撮った写真です。ピアノの上の部分全体が屋根です。全ての鍵盤が写っていますが、今東中にある他のピアノと鍵盤の数を比べてみると面白いと思います。

これは、プレイエルのピアノの上に置いてある説明です。ピアノの詩人と呼ばれるショパンとのつながりがあります。また、製造番号からこのピアノが 100 年前に作られたピアノだということが分かります。

ショパンについて簡単に紹介します。ポーランド出身の天才作曲家で、



・ポーランド出身の天才作曲家
・7歳ごろから作曲を始め、「モーツァルトの後継者」と贈られる
・8歳で開いた最初の公開演奏会は大成功

・より広い活動を求めフランスのパリへ
・ピアノ音楽の新しい地平を切り開く（PLAYELを愛好）
・肺結核のためパリで39年の人生を終える
・ショパンを称える、音楽コンクールの最高峰「ショパン国際ピアノコンクール」が開催されている



山本 貴志
(やまもと たかし)
・1983年4月12日生まれ
38歳
・長野市出身のピアニスト
・2005年 第15回ショパン国際ピアノコンクール 第4位

さんという方がいます。2005 年の第 15 回ショパン国際ピアノコンクールで第 4 位になり、大きく話題になりました。身近な場所にもすごい方がいて、遠い世界の話ではないんですね。

私たちは当たり前のように通っている東中ですが、東村最大の願いが統合中学校としての東中学校の建設でした。そのために、村中に寄付金を募り、左上の写真のように、村を挙げて汗を流して校地を整備してくださったのです。一人一人の名前は記録されているわけではありませんが、地域の全ての人々が、東中の建設に心血を注いだのです。その象徴が山岸右京さんなのです。下の写真は開校当時の東中です。

プレイエルのピアノは、製造されてから 30 数年を経て東中に届けられました。以来、東中の創立から音楽堂とともに、東中生の歌声を支え続け、東中生を見守ってきたのです。



プレイエルのピアノ

プレイエル社は、オーストリア出身でフランスで活躍し、ハイドンに師事した作曲家イニャース・ジョセフ・プレイエル（1757-1831）が設立したピアノ製作会社である。

プレイエル社のピアノは、軽妙で歌うような自然の音色を特徴とし、ショパンが好んで使用したことで知られる。

このピアノは、郷土出身の山岸右京氏が本校に寄贈した3台のピアノの最初のもので昭和33年本校開校時に贈られた。

製造番号から1920年代に製造されたピアノで、今では大変貴重な文化財である。
(当時の価格で4000円、現在に換算すると約2000万円。)



「ピアノの詩人」
ショパン
100年前の
ピンテーシ
ピアノ



整地し、校地の方

1955年、仁礼村・豊丘村が合併して誕生した「東村」の最大の願いが、統合中学校（東中学校）の建設。全村あげての寄付・校地整理など、新しい中学校建設のために、地域の人々は心血を注いで立ち向かった。

～その象徴が山岸右京氏～



1920年代に製造され、30数年を経て東中に届けられた
PLAYELは、東中の創立から音楽堂とともに、東中の歌声を支え、東中生を見守ってきた。



ブレイエルのピアノは……

- ・地域の方の、明るく伸びやかに成長してほしいという祈りの象徴
- ・東中に学ぶ全ての生徒を見守ってきた
- ・「東中の宝」であり、貴重な文化財

現状は……

- ・楽器としての魂が抜かれ、その音色を奏でることなく、生徒に触れられることなく、校舎の片隅にひっそりと、孤独にたたずんでいます。



ある演奏家の言葉（ビンテージ・ピアノに寄せて）……

- ・楽器は演奏されてこそ価値がある。
- ・魂を持っている。
- ・我々がどこかで忘れてきてしまった、先人たちの音楽への思いが込められている。

ビンテージ・ピアノは、壊れていたり、調律が狂っていても、豊かな経験としっかりした技術を持った技術者が手がければ蘇る。今まで粗大ごみとして迷惑がられていたピアノが、修理・調律によって価値の高いピアノに生まれ変わることがある。（ウ・キベディア ビンテージ・ピアノ）

ブレイエルのピアノは、東中生の成長を願う地域の祈りの象徴であり、全ての東中生を見守ってきた東中の宝です。貴重な文化財でもあります。右京さんが寄贈してくださったバックネットはバックネットとして、二宮尊徳像は像として、あるべき姿で今もあり続けていますが、ブレイエルのピアノは、楽器としての魂を抜かれ、その音色を奏でることなく、生徒に触れられることなく、校舎の片隅にひっそりと、孤独にたたずんでいます。

名前はわかりませんが、130年前のブレイエルのピアノを持っている、ある演奏家の言葉です。「楽器は演奏されてこそ価値がある」「魂を持っている」「我々がどこかで忘れてきてしまった、先人達の音楽への思いが込められている」

ビンテージ・ピアノを調べたところ、「壊れていたり、調律が狂っていても、豊かな経験としっかりした技術を持った技術者が手がければ蘇る。今まで粗大ごみとして迷惑がられていたピアノが、修理・調律によって価値の高いピアノに生まれ変わることがある。」とありました。

正解が一つではない問い

最後に、皆さんに「正解が一つではない問い」「私たちは、『PLEYEL のピアノ』を、未来に向けてどう引き継いでいけば良いのだろう？」を託します。そのために、「『PLEYEL のピアノ』に新たな命を吹き込むためのアクション」を考えてください。「新たな命を吹き込むために何をするか」「そのために必要なことは何か」など、皆さんの新鮮なアイデアをとにかくたくさん出し合ってください。現時点でそれができるか、できないかを考える必要はありません。無理・無謀と思われることでもかまいません。たくさん出し合うことが重要です。どんなアイデアが出てくるか楽しみにしています。それでは、担任の先生の指示で進めてください。これで、校長講話を終わります。

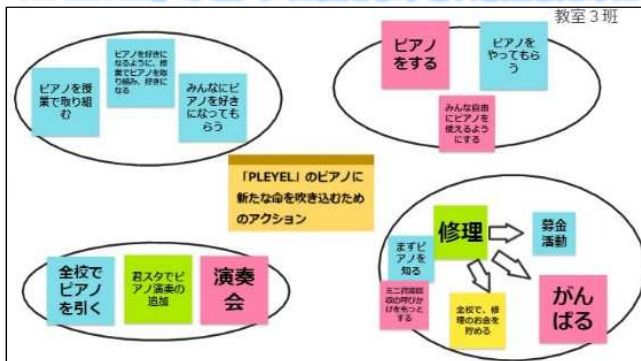
正解が一つではない問い

私たちは、「PLEYEL」のピアノを、未来に向けてどう引き継いでいけば良いのだろうか？

新たな命を吹き込むためのアクションを考えよう！

「何をするか」「そのために必要なことは何か」
「できる・できない」の判断は後回し…… とにかく
無理だと思えることでも、**たくさんのアイデア**を出し合おう

『PLEYEL』のピアノに新たな命を吹き込むためにできそうなこと」を考えてみての感想



- ◇出来るかは置いておいて、どんなことを行えば今中学校にいる生徒たち新入生の方たちに興味を持たせるかというのを考えるのが楽しかったです。実際にやりたいぐらいでした。(1年)
- ◇これまでずっとつないできたもので、しかもこれまでずっと展示されていたものに命を吹き込むのは難しいことだと思うけど、とりあえず今できることは、今日のようにこれからどうするかとPLEYELのピアノのことを考えることだと思います。これからも考えたいです。(1年)
- ◇東中学校に価値のあるピアノがあることや、山岸右京さんの存在を知らなかったのが、今回知って、東中学校に誇りを感じました。(1年)

- ◇まだ PLEYEL のピアノを知らない人が多くいるので、その多くの人に知ってもらうために目立つ場所に置いたり、調律などをして演奏する機会をつくったりするなどただ、学校の隅に置いてあるだけで終わらせないで、ピアノを引き継ぐような考えがたくさん出せてよかったです。(2年)
- ◇考えたらすごくたくさんアイデアが出てきたので、これやってみたいとかいいんじゃない？みたいなものがたくさんあった。あまりこのピアノについて知らなかった私はとてもこのピアノが好きになったというか、もっと魅力を知りたいし、伝えていきたいと思った。そして、このピアノがそんなにレアなものだったなんて、象牙とか高級すぎる、とかいろいろなことを圧倒されました w すごいんですね。ほんとに。東中にいてよかったです。(2年)
- ◇修理をして、きれいな状態にしてこれからの新入生とかにも伝えていけたらいいと思った。(3年)
- ◇今まではただの古いピアノだとおもっていたけど、今日の話を聞いて、どうにかして新たな命を吹き込みたいという気持ちになりました。(3年)
- ◇自分が入学してからずっと同じ場所にあり続けていることを改めて今回の機会に感じました。「PLEYEL」のピアノの歴史や東中学校との関わりを聞くと、とても凄いことだということが分かりました。余談ですが、小学校のときにも同じように昔からピアノがあり、音楽会のときにそのピアノを使って演奏したりもしたことがありました。その時は、テレビ局の取材もあり、より情報がたくさんの人たちに届いたはずで、なので、東祭の音楽会などで、使える状態になったら触れてみる機会もあれば良いのではないかと思います。(3年)

